

令和 6 年度 学校経営環境分析書

呉中央中学校区 校番 1 3 学校名 呉中央中学校

1 学校の内外環境の分析

外部環境	O (支援的要因) ・文化的施設、スポーツ施設、各種事業所など、体験的な学習に適した教育資源が豊富である。 ・豊富な地域人材と学校教育への協力的風土がある。 ・学習の場として多くの商店・事業所等の協力がある。 ・PTA が協力的で、文化祭やあいさつ運動など教育活動への支援に積極的である。 ・ICT 環境が充実している。 ・幼保小中高が全て地域の中にあり連携しやすい。	S (強み) ・これまで16年間培ってきた小中一貫教育の実績がある。 ・小中の教職員が合同研修を実施するなど、学園全体で9年間を見通した教育活動を行うことができる。 ・施設一体型で職員室も同一であることから、小中の情報や課題の共有や連携が容易である。 ・ノーチャイムで行動できる。 ・8年からリーダーシップを発揮できる。	内部環境	支援的要因と強みを生かした活動・取組は ・施設一体型の小中一貫教育校の強みを生かし、小中教職員が日常的に連携を図り、より効果的な教育活動を推進し、生徒の資質・能力の育成を図る。 ・コロナ化で途絶えた行事や交流なども含め、これまでの小中一貫教育の取組を踏まえた伝統の継承とともに新しい文化の創造を行う。
	T (阻害的要因) ・家庭での自主的な学習が不十分な生徒がいる。 ・メディアコントロールに課題がある。 ・近隣校が多く、他校生徒とのトラブルが起きやすい。 ・同一小学校からの進学のため、過去のトラブルを引きずりやすい面があり、新しい人間関係作りや交友関係作りが苦手な生徒が多い。	W (弱み) ・教職員の数が不十分であり、常に多忙感があり、人手不足状態、情報共有の時間もままならないため、指導の一貫性の弱さやぶれがあることがある。 ・コロナ禍によって、交流授業などの伝統の継承が途絶えてしまったものがある。 ・学習・生活面での規律を守ることや主体的に行動することに対する課題がある。 ・5～7年生が同一校舎で生活しており、時間帯や活動内容が異なるため、お互いに気が散って集中することが難しいことがある。		阻害的要因と弱みを克服する活動・取組は ・生徒の自己肯定感向上への取組として、生徒会主体の委員会活動や行事を支援する体制づくりを学校全体で行う。 ・教職員が互いに授業づくりや学級づくり等を互いに学び合える体制を構築する。 ・生活リズムを整えたり、メディアコントロールを行ったりする取組を、家庭と一体となっで行えるように保護者啓発を計画的に行う。

2 重点課題

- ① 「授業づくり」「学級づくり」を推進する。
- ② 「自己指導能力」を高める。
- ③ 基本的生活習慣の定着と体力・運動能力の向上を図る。
- ④ 業務改善を進め、元気で明るい職場を実現する。